

研究活動報告

第1回 熱帯感染症 疫学・人類生態学シンポジウム 「熱帯疫学における観察データと複数数理モデルの対峙」

平成16年2月14~15日、長崎大学熱帯医学研究所大会議室にて第1回熱帯感染症疫学・人類生態学シンポジウム「熱帯疫学における観察データと複数数理モデルの対峙」(平成15年度長崎熱帯医学研究所研究集会15-B-4)が開催された。

報告は、熱帯における各種寄生虫症やSARS等の感染症の疫学、妊産婦あるいは乳幼児の疫学、そしてこれらに関連する数理モデルやGIS応用例などであった。数理人口学に関連するものとしては以下の報告があった。

「フィリピン・ボホール島における日本住血吸虫症のコントロールの事例について：
数理モデルによる解析」

石川洋文，大前比呂思，松田 肇

(岡山大・環境理工・環境数理科学，筑波大・基礎医学・寄生虫学，独協医大・熱帯病寄生虫学)
「フィリピン・ミンドロ島における日本住血吸虫症対策の推計：

エージェントベースのマイクロシミュレーションモデルによる分析」

竹内昌平 (東京大学)

「重症急性呼吸器症候群 (SARS) の流行分析・制圧対策評価に関する理論疫学的研究」

西浦 博 (マヒドン大学)

「IBM に使える病因論的死亡モデル」

中澤 港 (山口県立大学)

「非線形最小二乗法による1955-2000年の都道府県における性年齢各歳別の高齢域の死力への
Gompertz-Makeham 曲線の当てはめと死力の推移トレンド」

大場 保 (国立社会保障・人口問題研究所)
(大場 保記)

日本地理学会2004年度春季学術大会

日本地理学会2004年度春季学術大会が、2004年3月26日~29日、東京経済大学(東京都国分寺市)において開催された。口頭165件、ポスター58件の計223件の一般発表、16件の発表を含む2つのシンポジウム、およびパネルディスカッションが行われた。人口関連分野についても多数の報告がなされた。以下、主なものについて発表題目を紹介する。

「函館市における都市内人口移動と住宅立地」

沼田尚也 (北海道大学・学)

「東京圏における分譲マンション居住者の居住地選択」

上村要司 (東京都立大・院)

「都市通勤可能架橋島・沖縄県浜比嘉島における人口変動と転入者の存在形態」

宮内久光 (琉球大)，下里 潤 (琉球大・院)

「バンコク大都市地域における投資の空間的分布と男女別にみた人口移動」

中川聡史 (神戸大)

「よりごのみの労働者・わらをもつかむ労働者—地域労働市場と地域間労働異動の日英比較」